【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【公開番号】特開2012-78221(P2012-78221A)
【公開日】平成24年4月19日(2012.4.19)
【年通号数】公開・登録公報2012-016
【出願番号】特願2010-224075(P2010-224075)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　21/27　(2006.01)
Ｇ０１Ｊ　3/50　(2006.01)
Ｇ０１Ｊ　3/36　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　21/27　Ｂ
Ｇ０１Ｊ　3/50
Ｇ０１Ｊ　3/36

【手続補正書】
【提出日】平成25年6月21日(2013.6.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】

次に、測定対象物６の反射特性として、拡散反射成分のみが観測される場合、$l_{oc}(\lambda)$および$l_{wc}(\lambda)$はそれぞれ（６）式、（７）式と表すことができる。

［数５］

$$l_{oc}(\lambda)=q\rho(\lambda)e_{wc}(\lambda)$$

・・・（６）

$$l_{wc}(\lambda)=qe_{wc}(\lambda)$$

・・・（７）

ここで、定数ｑは光源の分光分布が相対値で与えられていることに起因するスケールである。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】

（３）式、（６）式および（７）式を（４）式、（５）式にそれぞれ代入して、（８）式、（９）式が得られる。

［数６］

$$d_o=qk\int_{vis}(l_{om}(\lambda)/e_{wm}(\lambda))e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda$$

・・・（８）

$$d_{\underline{w}} = q\int_{vis} e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda$$

・・・（９）

（８）式、（９）式を（１）式に代入すると、（１０）式が得られる。

［数７］

$$\rho_a = \frac{d_o}{d_{\underline{w}}} = k\frac{\int_{vis}(l_{om}(\lambda)/e_{wm}(\lambda))e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda}{\int_{vis} e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda}$$

・・・（１０）

（１０）式を変形して、求めたいスケールｋは（１１）式で表せる。

［数８］

$$k = \rho_a\frac{\int_{vis} e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda}{\int_{vis}(l_{om}(\lambda)/e_{wm}(\lambda))e_{wc}(\lambda)s(\lambda)d\lambda}$$

・・・（１１）